

見聞 県議会を

テレビ・ラジオ放送

定例会の質問と答弁の様子や委員会の審議状況、議案の審議結果などをお知らせしています。

テレビ テレビ和歌山(WTV)

県議会だより 開会、質問、閉会日の22時30分から25分間放送(6月定例会放送日未定)

県議会手話だより 閉会日の約1週間後に、22時30分から30分間放送(6月定例会放送日未定)

ラジオ 和歌山放送(WBS)

県議会ダイジェスト 開会、質問、閉会日の22時から15～30分間放送(6月定例会放送日未定)

県議会ホームページ

和歌山県議会

和歌山県議会

検索

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/200100/www/>

● 県議会のしくみや主な動き、議員紹介、議会日程、質問項目、本会議録など様々な情報を掲載しています。

● 議会開会中は、質問など本会議場での模様を**生中継**しています。また、この**中継録画**や**テレビ広報番組の録画**をいつでも見ることができます。

傍聴してみませんか

- 本会議は、申込みなしで傍聴できます。
- 委員会の傍聴は、事前の申込みが必要です。

平成23年5月臨時会 会期日程(予定)

本会議 5月12日(木)～13日(金)・16日(月)～17日(火)

※この日程は予定ですので、変更されることがあります。傍聴を希望される方は、開催日時等をお確かめください。

「点字版・テープ版」のご案内

本紙の点字版、テープ版(ボランティアの方による朗読)を作成しています。

虚礼廃止にご理解・ご協力を!

県議会では、虚礼を廃止した議員活動を行っています。

- 冠婚葬祭、慶事、見舞い及び各種行事等における寄附行為の禁止(本人が出席する結婚式の祝儀、香典等は除く)
- 議員名、議員団名及び会派名による年賀・暑中見舞い等の各種広告の禁止
- お祝い・おくやみ電報等は出さない(親戚・友人は除く)

編集後記

4月といえば、新入生・新入社員というように新たな事が始まる月ですが、県議会も、4月30日から新議員による議会活動が始まります。また、この「わかやま県議会だより」も、次号より新たな紙面となりますので、どうぞご期待ください。

マークのある駐車スペースは障害のある方のためのスペースです 障害のある方以外の方は他の駐車スペースをご利用ください

お問い合わせは県議会事務局各課まで

総務課 議会庶務、情報公開など ☎073-441-3560 FAX073-441-3559
 議事課 傍聴、請願、陳情の受付など ☎073-441-3570 FAX073-441-3575
 調査課 調査業務、議員提案条例など ☎073-441-3580 FAX073-441-3581

発行日/平成23年4月23日
 編集・発行/和歌山県議会
 〒640-8585(県庁専用郵便番号)
 和歌山市小松原通1-1
 ☎073-441-3570



がんばろう! 日本

被災地復興への支援について

このたびの「東日本大震災」により、東北地方太平洋沿岸部を中心に甚大な被害が発生し、多くの尊い命が奪われました。

和歌山県議会を代表して、犠牲となられた多くの方々とご遺族の皆様に対し深く哀悼の意を表すとともに、被災され、避難生活等厳しい生活を余儀なくされている方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

震災発生直後より、全国各地から、また世界各地から被災地に対し様々な支援活動が行われており、本県におきましても、県民の皆様のご協力のもと義援金や支援物資の提供が行われ、また、医療・消防をはじめ様々な専門職種のスタッフが現地へ赴き、被災者への支援にあたっています。

今回の震災は私たちがこれまでに経験したことのない未曾有の災害であり、その復興にはまだまだ多くの人的、物的、そして財政的な支援が今後長期にわたり必要と考えられます。

和歌山県議会としても、引き続き、被災地への支援に全力で取り組んでいきます。県民の皆様におかれましても、さらなるご支援にご協力くださいますようお願い申し上げます。

県民みんなの思いが、被災地の復興、日本の復興につながることを願います。

和歌山県議会議長

予算特別委員会

質問委員(8人)

3月2日(水) 泉 正徳・野見山海・花田健吉・雑賀光夫
3月3日(木) 山田正彦・多田純一・片桐章浩・富安民浩

知事出席のもと、県の新年度予算案について審議を行い、原案どおり可決しました。
主な質疑は次のとおりです。

■ 農山漁村の活性化に向けた6次産業化について新年度の取組は。

■ 新農林水産業戦略プロジェクトの推進等に加え、業務需要に対応した産地づくりや体験型観光などを推進するとともに、国の施策等も活用しながら6次産業化への取組を支援し、農林水産業の振興と新たな産業の育成や雇用機会の拡大により活性化につなげたい。

■ 渋滞解消や広域観光、救急搬送に大きな効果が期待できる新文里湾架橋構想についての見解は。

■ 近畿自動車道紀勢線田辺～すさみ間の供用や現在事業中の県事業等が実現した上で、文里湾架橋構想については、高速道路をはじめとする道路網の整備の効果を検証し、委員ご指摘の観点から、その熱い思いを念頭に置きつつ、将来的に検討したい。

■ 森林・林業政策として、切捨て間伐と架線による搬出への県単独補助の必要性は。

■ 森林資源の充実の中で、木材生産を基調とする林業振興を図ることが重要で、低コスト林業による紀州材増産等を積極的に推進している。国の間伐制度の見直しに対し課題を検証し、制度の不足があれば国に要望し、さらに必要ならば独自の政策も考えたい。

■ 私立高等学校及び高等専修学校への運営助成はそれぞれどうか。

■ 当初予算案では、高等学校(全日制)は生徒一人当たり32万7970円、高等専修学校は3万円で積算し計上している。高等学校への補助には、国の財政措置があり、生徒一人

当たり国庫補助金5万2905円、地方交付税25万5900円が措置の予定である。

■ 農作物鳥獣害対策として、射撃場についての知事の所見は。

■ 射撃場について、「市町村の地元負担」、「市町村の地元協力」はきちんとならば問題はない。問題は「経営」で、建設費以外に県費を毎年何千万円も導入するには、県民の立場から許されるかという点でつらいところがある。3条件がクリアできればつくりたいの熱い思いはある。

■ 支え合う社会づくりのため、高齢者見守りなどの対策にどう取り組むか。

■ 県・市町村・地域が一体となり、見守りや外出・買い物支援をはじめとした生活支援サービスをさらに充実させ、高齢者が地域でのつながりを持ち、支援が必要な方を地域で支

える体制づくりを促進していきたい。

■ 人口減少と高齢化に備えた県の取組については。

■ 人口減少への取組としては、「働く場をさらに増やす」ことが大事である。医療・介護・福祉等のサービスはねらいたい産業ではあるが、公的資金を多く必要とするため、公的セクターの財政を悪化させるおそれがある。自立的に発展できるように、どのように育成するかが大事であり、いろいろな可能性を模索し、積極的な手段を講じたい。

■ 一年半余の民主党政権運営について県知事の任にある立場での感想は。

■ 地方を大切するということで支持を得たにもかかわらず、地方が大切にされていないと感じる。遅れた高速道路、地方の技術開発、農業基盤投資など、本県においては特に必要なものが切られている。現政権の政策は、将来に対する投資を軽視しているように感じる。

被災地復興への支援について